

「三島さんが死んで日本は退屈になった。これで僕も死んだら、日本はもっと退屈になるだろう。」
(石原慎太郎)

学生時代、何かでそのエピソードを目にした私は、早速古書店で入手して、シルヴァーを聴きながら読んだ。そして、ついに飛んだ。同じころ、芥川賞を受賞した村上龍さんの「限りなく透明に近いブルー」を読んでいたが、それよりもはるかに尖っていた。

後年、このヤバイ作家と面会することになった。人生とはつくづく不思議なものだと思ふ。石原さんと面会したのは東京都知事在任中のことだった。石原さんから一目置かれ、短編小説「一途の横道」のモデルになったジャナリストの上島嘉郎さんから「石原さんを紹介した

どうなる、慎太郎



戦後日本の価値観を根絶的に問い続けた石原慎太郎さん
平成28年4月

始める。とくに電話が鳴った。「ちよっと失礼」と言っただけで、石原さんは電話の部屋に姿を消した。相手は某政治家だった。どうも込み入った用件のように、30分ほどたって戻ってきた石原さんの機嫌は、明らかに

組織的な感受性
鋭い直感
誰もが指摘していること

とにかく、共感するにせよ、反発するにせよ、戦後の政治家で、石原さんほど肉体を持った言葉を発する政治家はほかにいなかった。そういえば、石原さんの死のニュースが流れた直後、追悼の言葉を述べることなく、「彼が撒き散らしたレイシズム、性差別、障害者差別等についても、なかったことにしないでほしい」と「日本で公然とヘイトスピーチをまき散らしてよい」と差別主義者たちを安心させたところに、彼の「大罪がある」と発信する人たちがいたが、それは石原さんの言葉の力を彼らがよ

7歳上の先輩作家にぬけぬけと書いてしまおう率直さ、そして三島の自死を予言するような直感。やはり石原さんはただ者ではない。あながきに代えて掲載されているのが「中央公論特別編集 三島由紀夫と戦後」(平成22年10月刊)にあるインタビューだ。こんなことを言っている。
《三島さんが死んで日本は退屈になった。これで僕も死んだら、日本はもっと退屈になるだろう》
本場に日本は退屈になりそだ。
(文化部 桑原聡)

《三島さんが死んで日本は退屈になった。これで僕も死んだら、日本はもっと退屈になるだろう》
本場に日本は退屈になりそだ。
(文化部 桑原聡)

《三島さんが死んで日本は退屈になった。これで僕も死んだら、日本はもっと退屈になるだろう》
本場に日本は退屈になりそだ。
(文化部 桑原聡)

国家を脱炭素の犠牲にするな

脱炭素でロシア依存に

ここまでEUがロシア依存になった理由は何か。

ウクライナがEUの犠牲に

EUは「気候危機」説に憑りつかれ、脱炭素に熱心だった。石炭火力発電は縮小され、ガス火力への依存度が高くなった。風力発電を大量導入したが、風が吹かないときにはガス火力でバックアップしなければならぬ。2021年の初めから夏にかけて、風の弱い日が続き、ガスの需要は増え価格が高騰した。

だがガス供給が止まると、実は、欧州も破滅する。ロシアは主としてパイプラインで、欧州のガス輸入量の約40%を供給している。もしもこれが、経済制裁の結果停止すればどうなるか。

欧州全域で暖房用燃料が不足する。真冬の欧州では、これは多くの死者すら意味するかもしれない。電力不足も深刻になり、製造業は操業停止になる。コロナで傷んだ経済へとどめの一撃となる。

EUは今やロシアのガスなしではまともに生活できない。このため、有事においてEUがどこまで本気で経済制裁できるか、ロシアは値踏みをしている。中でもドイツの弱腰ぶりは際立っている。

正論



キヤノングローバル
戦略研究所研究主幹
杉山 大志

革命をもたらしたシェールガス採掘技術を、欧州諸国は公害問題を理由に事実上禁止してしまった。対照的に米国はシェールガスの開発で世界一の産ガス国となり、ガス価格は極めて低くなった。欧州のシェールガス埋蔵量は実は米国と同程度と豊富だ。これを米国に開発すれば、今日のロシア依存はありえなかった。

再エネ最優先を見直せ

ウクライナ危機の構図を見るに、プーチン氏こそが、EUの脱炭素(と原発)からの最大の受益者となっている。

翻って日本はどうか。極端な脱炭素、再エネ最優先、そして原子力

基の原子力発電所を停止した。今22年中にさらに3基の原子力発電所が停止し、脱原発が完成する予定になっている。

結果、欧州ではガスの備蓄が乏しい状態でこの冬を迎えた。

脱炭素政策は、脱物質ではなく、その正反対である。とくに心配されるのが、電気自動車(EV)である。EVは石油が使わなくなるかもしれないが、その分、バッテリーとモーター製造で鉱物資源は大量に必要になる。

脱炭素一本よりの現行の日本のエネルギー政策は、独裁政権に力を与え、民主主義を減らすとしている。再エネ最優先の方針は一時停止し、緊急にエネルギー政策を再考すべきだ。

力の停滞によってエネルギー安全保障、ひいては国の独立や安全すら危機に陥りつつあるのは、欧州と同様だ。どうすべきか。論点はいくつもあがるが3つに絞ろう。

まず第1に、原子力の再稼働を加速することだ。国際的なLNG(液化天然ガス)価格の高騰がもたらす経済的影響を軽減できる。のみならず、国際的な不足を緩和して、より多くのLNG船をEUに向かわせることで、EUのエネルギー危機の救済にもなる。

第2に、石炭火力の位置づけを見直すことだ。いま日本のエネルギー基本計画では石炭火力は粗末な役割しか割り当てられていない。2030年までの発電量見通しを引き上げ、長期的に安定で、安価な石炭調達を実現すべきだ。第3に、脱炭素による中国依存を回避すべきだ。脱炭素政策は、脱物質ではなく、その正反対である。とくに心配されるのが、電気自動車(EV)である。EVは石油が使わなくなるかもしれないが、その分、バッテリーとモーター製造で鉱物資源は大量に必要になる。

軍歌を歌い継ぐ! 「ああ 櫻花」 CD

明治から昭和まで八十年近い帝国陸海軍の歴史
現代まで歌い継がれる名曲、知られざる佳曲

主意書
(先人の魂忘れまい)

幾多の戦火の中、突撃ラッパと共に、愛国と親兄弟・妻を思
魂と共に敵陣に突っ込んだ兵士達が、常に戦友を、また、自身
只々、死を目の前にしながらも、軍歌を心の支えとして、涙して
多々ある軍歌の歌詞を聞くにあたり、その生々しい現実の事
崇高なる強気魂と、人間愛を感じるところであり、また
私どもが、企画致しております。本記、【ああ・櫻花】は、
軍歌としてではなく、心の歌として、戦後のガレキの中から
日づけは、戦士であった戦友・戦友の遺族に、遺言の代わり
として、

オピニオン

中国共産党の権威と政治的、軍事的な圧迫を受け続けている台湾。今回の事態を、どうみているのか。

立法委員(国会議員)に相当)や行政長官(首相)を歴任した大物政治家、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表(大使)は、「人ごとではない。危機への備えを急いでいる」と話す。

中国が台湾に侵攻したとしても、民主主義陣営がすぐに支援の手を差し伸べるとはかぎらない。まず台湾が自ら、ギリギリまで防衛する努力をせねばならないことは、ウクライナの人々が手本を示した通りだ。

蔡英文総統は予備役部隊の射撃訓練を今月12日に視察し、「(台湾の)国防は国際社会の支援だけでなく

論多筆

戦に「なる」と語った謝氏はまた、「公正な民主選挙ならば世界どこでも強権国家に融和的な政策を示す政党や候補が不利になる。(ウクライナの事態は)特に若者の投票行動を左右する」とも分析した。

今夏には日本で参院選、秋には米国で連邦議会の中選挙区、台湾で統一地方選挙がある。強権国家の言動が選挙に結び付き、政治を動かすパワーになる。

さらに「国際社会がロシアに行ったような経済制裁を科せば、中国は深刻な事態に陥る」ともみている。中国経済はロシア以上に国際社会にリンクしている。

ドル建て取引からの排除など金融制裁に加え、「西側の民間企業が続々と中国

は経済損失や外交失策など合理的な理由よりも、独善的な政治判断を優先させて武力行使する非合理性があることを、改めて教えてくれた。中国も覚悟さえ決めれば侵攻も躊躇しない。

この問題はもろく、中国にも台湾にも近接する日本にとつて「対岸の火事」などではない。万一、台湾が中国の懷に入れば、地政学上、日本の安全保障は壊滅的だ。ロシアも北朝鮮も日本のすぐ近くに位置する。

「先進7カ国(G7)で唯一のアジアの国、日本がいまこそ、安全保障で強いリーダーシップを発揮すべきときではないか。今日のロシアは明日の中国だ」と謝氏は繰り返して訴えた。(論説委員兼特別記者)

地、神戸世界パラ陸上の組織委員会の代表としてフラッグ・ハンドオーバー・セレモニーに出席。そのときに、「ドバイの競技場はバリアフリーが素晴らしいです。ぜひ神戸も」とパソンズさんはこやかに話された。北京では、そんな彼が鬼の形相だ。戦争に怒り、魂のこもった言葉は世界中に響いたに違いない。

パラリンピックは多様性を認め合い、共生社会を具現化するシンボリックな大会だと思ふ。オリンピックとともに平和の祭典の代表であるのに、その開催直前にロシアは侵略戦争を始めたのだから、許されるわけがない。

□ □

古代オリンピックの始まりは紀元前776年とされている。当時のギリシャではポリ

祖国への思いを込

ルシーの選手が北京パラリンピックから排除されたのは当然だと思う。

政治とスポーツは切り離すべきだという意見もあるが、今回は政治ではなく、武力によって他国の主権、市民の命を奪う「戦争」である。もちろんロシアの選手個人に罪はないが、今ウクライナの国民をはじめ、多くの人が命の危機にさらされている。命を守るため、ロシアの暴力に對し、暴力以外で制裁を加えて対抗するには、経済制裁をはじめ、あらゆる対抗策をとるべきだ。第三次世界大戦、ひいては核戦争にまでなりかねない状況を避けるためには、スポーツ界からロシアを排除することもやむを得ない。

差別ではない。スポーツの原点ともいえるオリンピックを、をかけて戦う人のことを思い、自分自身も精いっぱい戦ったことを空に向けた拳に込めたのだから。それにしても祖国を守るために戦地へと自ら向かうウクライナ人の凛とした態度に、心を打たれる。北京オリンピックに出場したアナスタシア・メルクシナさん(女子バイアスロン)は「バイアスロン用のライフルをマシンガンに変える時期がきました」と祖国防衛のために戦う意思を明確にした。ウクライナ国歌の名は「ウクライナは滅びず」。その歌詞には「我々は自由のために魂と身体を捧げ」とある。日本が万が一、武力によって侵略されたら。子供を守り、愛する人を守る。ことができるだろうか。この緊張感の中で、いろいろと考えさせられる。

民主主義防衛のエネルギー政策

正論



キヤノングローバル戦略研究所研究主幹 杉山 大志

ロシアのプーチン大統領のウクライナ侵攻に対して欧州は経済制裁を発動した。だが腰が引けている。ロシアの経済・財政の柱は石油とガスの輸出だから、本当はこれを止めれば大打撃となる。だが今のところこれは制裁対象ではない。なぜか?

ガス供給が止まると、欧州も破滅するからだ。欧州はガス輸入量の約40%をロシアに依存している。これがないと暖房ができない。燃料不足で工場も止まる。欧州は今やロシアのガスなしではまともに生活できないのだ。欧州連合(EU)は脱炭素に熱心で、石炭を否定し、石油・ガスの開発を止めた。さらに脱炭素まで進めた。この結果、エネルギー供給は「風とロシア」任せになった。昨年は風が弱く、ロシアのガスへの依存は危険なまでに高まった。

欧州とロシアの対立は、ウクライナに侵攻した。この戦争は、自国のエネルギー供給を潰した欧州が招いたものだ。

米国は超党派で脱「脱炭素」米共和党の元大統領候補テッド

・クルーズ上院議員は、脱炭素に熱心なバイデン政権の自滅的なエネルギー政策こそが、アフガニスタンからの無様な撤退と並んで、ロシアのウクライナ侵攻を招いた要因だ、と非難している。マルコ・ルビオ上院議員は「最大の対ロシア制裁は、いまず愚かなグリーンディールをやめると宣言することだ」と激しい調子で述べた。

米国は世界一の産油国・産ガス国だ。本気で資源を世界に供給していれば、エネルギー価格は下に下がったはずだ。だがバイデン政権は脱炭素に熱心で、自国の石油・ガス企業に規制や圧力をかけ、事業や権益を放棄させてきた。結果、石油・ガスの世界市場の支配力は、石油輸出国機構(OPEC)とロシアが握り価格は高止まりした。インフレの悪化を懸念する欧米はますます経済制裁に及び腰になった。

ロシアは今でも、石油・ガス等

の輸出で毎日10億ドルもの収入を欧州等から得ている。

米与党の民主党からも脱炭素への道反者が出ている。上院エネルギー資源委員会委員長を務めるジョー・マンチン議員は「国内の石油・ガスを大増産して自由世界に提供すべきだ」としている。バイデン政権は、議会の超党派での立法によって圧力を受け、路線変更を余儀なくされてゆくだろう。

欧州の政策大転換

欧州諸国でも、ロシアへのガス

依存を減らし、米国等からの液化天然ガス(LNG)輸入、そして石炭の利用を増やそうという動きが相次いでいる。これまでの脱炭素一本よりの政策からは根本的な変化である。脱炭素の急先鋒だったドイツ政府も例外ではない。シヨルツ首相は、脱炭素・脱原発を再考して利用することやLNG基地の建設検討を表明した。

英国でも、環境問題を理由として事実上禁止されていたシェールガス採掘を開始すべきだ、という意見が、与党保守党の議員から噴

出している。英国には十分なガス埋蔵量がある。米国などに開発すれば、本来はロシアから輸入などせず、ガスは自給できていたはずなのだ。脱炭素を見直し、LNG、石炭、シェールガスなどの化石燃料資源を活用する必要性は切迫している。

だがこれまでの政策を自己否定することになるので、とくに英国やドイツなど脱炭素に熱心だった政権ほど、どの程度の早さで路線変更できるかは予断できない。

脱炭素モラトリアムを

今後、ロシアは世界市場から締め出されることになる。世界全体で石油・ガスは品薄になり、価格が高騰する。日本は、今のエネルギー基本計画にある「脱炭素」「再エネ最優先」といった政策を続けてはいけぬ。欧米と共に、自滅的な脱炭素政策をやめて、化石燃料産業を復活させねばならぬ。石炭火力をフル活用し、原子力の再稼働を進める必要がある。余ったガスは世界に転売する。これは日本国内はもとより世界のエネルギー価格高騰を防ぐ。実

(すぎやま たいし)

2022.3.22

2021年も 怒涛の合格だ! 94.50% で20年連続の難関9割突破! 失敗しない受験を、45年間テーマ「成績があがり、前年度

昨年春合格の、いい笑顔のプリンス、プリンセスたち

お茶の水女子大学 辻 悠那 理学部 都立大常務校

慶應義塾大学 林 唐史朗 総合政策学部 私立横浜国立大学附属高校

早稲田大学 清水 葉々 教育学部 都立川崎高校

東京外国語大学 成田 零 国際社会学部 国際基督教大学横浜

早稲田大学 林 唐史朗 総合政策学部 私立横浜国立大学附属高校

早稲田大学 清水 葉々 教育学部 都立川崎高校

怒涛

予備校の値打は、規模の大きさや、合格者の絶対数ではありません。不合格者も、たくさんいるのです。だから、どのレベルから、どの大学に合格したかの、伸び率や合格率が予備校の真価です。みずず学苑は、不合格者を出さない受験をめざし、45年間進化しています。